

たまねぎレポート【345号】



平成28年7月26日

阪南青果株式会社

社内報

6月の天候は、西日本の太平洋側では降水量はかなり多かった。月後半は、西日本付近で梅雨前線の活動が活発化し、地域的な大雨となり水害や土砂災害が発生した。北日本では、降水量はかなり多く、北日本の日本海側では日照時間は少なかった。沖縄・奄美では気温はかなり高かった。7月に入り平均気温は平年より高い日が多い。北海道では平均気温、降水量は平年並みだが道東では日照は不足気味である。

気象庁が発表した8～10月の3カ月予報では、全国的に気温の高い状態が続き、厳しい残暑となる可能性がある。気温は平年より高く、降水量は平年並みか多い見込み。月別予報は次の通り。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。気温は、東日本で平年並み亦是高く、沖縄・奄美では高い。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では平年と同様に晴れの日が多い。気温は全国的に高い。

10月、全国的に天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側と西日本では平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ない。気温は、北・東日本で平年並み亦は高い。西日本と沖縄・奄美では高い。降水量は、沖縄・奄美で平年並み亦は多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

6月の主要市場の野菜の入荷は、殆どの中央卸売市場で前年を下回った。全国的に降水量が多く日照時間が少なかったことが、夏秋野菜の生育に影響した。平均単価は殆どの市場で前年を上回った。市場別では、札幌市場は前年比97%の入荷で、平均単価はkg¥244前年比103%。東京市場は前年比96%の入荷で、平均単価はkg¥269前年比103%。名古屋市場は前年比93%の入荷で、平均単価はkg¥256前年比102%。大阪本場は前年比97%の入荷で、平均単価はkg¥264前年比102%。福岡市場の入荷は前年比101%、平均単価はkg¥191で前年比99%となっている。

玉葱の6月の入荷は市場毎にかなりのバラツキはあったが、総体的に需給は品不足気味で、日毎に品薄高傾向が強まった。府県産の出回り減を北海物の在庫増でカバーしてきたが、月後半には北海物の在庫が底をつき、需給は日を追ってタイトになった。平均単価は高値であった前年並みに回復したあとも、右肩上がりの相場展開となった。市場別では、札幌市場の入荷は2,595トン前年比114%で、平均単価はkg¥118前年比90%。東京市場は8,342トン前年比83%の入荷で、平均単価はkg¥146前年比113%。名古屋市場は4,132トンの入荷で前年比108%、平均単価はkg¥115前年比100%。大阪本場は2,962トンの入荷で前年比87%、平均単価はkg¥157前年比130%。福岡市場は2,930トンの入荷で前年比107%、平均単価はkg¥123前年比109%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の、主要野菜14品目の6月の販売量は、77,839トン前年比99%(前月比91%)。平均単価はkg¥165前年比102%(前月比101%)となっている。曇天や低温の影響で、果菜類など夏秋作の出回りが遅れ、端境期となったとされている。販売量が前年比増となった品目はハクサイ(前年比110%)、ニンジン(〃106%)、ネギ(〃105%)など4品目。前年比減は、サトイモ(前年比80%)、パレイショ(〃91%)、タマネギ(〃93%)、トマト(〃95%)など8品目。価格が前年比高であったのはサトイモがkg¥489で前年比129%、キュウリがkg¥237で前年比117%、タマネギがkg¥132で前年比117%など10品目。前年比安となっているのは、ハクサイがkg¥69で前年比72%、ニンジンがkg¥126で前年比79%、パレイショがkg¥199で前年比93%など4品目となっている。

東京都中央卸売市場の6月の野菜の入荷は、126,267トン前年比96%(前月比94%)であった。主要品目で前年比増となったのは、ナマシイタケが前年比107%であったのを始め、ハクサイ・ニンジンが前年比106%など4品目(前月は11品目)。前年比減となったのは、タマネギの前年比83%を始め、サトイモが前年比85%、ホウレンソウが92%などの3品目(前月は4品目)。平均単価はkg¥259前年比103%(前月比104%)で、上旬¥268、中旬¥280、下旬¥259で月前半は堅調で後半は軟化した。主要品目で前年比高は、キャベツが前年比120%、キュウリが前年比119%、サトイモ前年比117%など8品目(前月は6品目)。前年比安は、ハクサイが前年比65%、ニンジンが前年比77%、パレイショが前年比87%など5品目(前月は9品目)であった。

東京都中央卸売市場の6月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	126,267	96.0	93.6	269	102.5	103.9
た ま ね ぎ	8,342	83.2	71.9	146	112.6	158.7
キ ャ ベ ツ	15,278	93.9	88.1	94	119.5	94.0
ト マ ト	9,120	95.0	87.3	297	101.7	100.7
レ タ ス	8,988	104.8	109.2	142	93.4	83.5
だ い こ ん	7,878	92.7	83.2	93	114.1	96.9
ば れ い し ょ	7,694	94.5	84.3	207	86.6	98.1
に ん じ ん	7,490	105.8	85.1	131	76.5	74.0
き ゆ う り	7,324	94.5	81.4	267	119.3	104.7
は く さ い	6,037	106.3	102.6	72	64.8	120.0
か ぼ ち ゃ	3,321	107.1	124.9	201	87.7	113.6
な が い も	1,056	99.4	128.2	412	111.5	102.0
に ん に く	348	102.7	113.4	921	96.8	115.7
れ ん こ ん	167	97.6	41.7	1,351	103.7	149.1

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の6月の玉葱の入荷は、8,342トン前年比83%(前月比72%)で急減した。6月は主力となる佐賀産地が病害で激減したことや北海物の在庫がなくなったことが影響した。西日本の府県産は何れの産地もベト病の被害で減少した。兵庫物は1,598トンの入荷で前年比82%、占有率は19%で前年比1ポイントダウン。佐賀物は1,532トンの入荷で前年比38%、占有率は18%で前年比22ポイントダウン。香川物は876トンの入荷で前年比76%、占有率は11%で前年比1ポイントダウン。愛知を始め

栃木、群馬、千葉などの産地は、市況高で出荷が前進化し、前年比335%～122%の入荷となった。平均単価はkg¥146前年比113%(前月比159%)と急伸した。旬別では上旬が¥143(前年比114%)、中旬が¥149(前年比116%)、下旬が¥148(前年比107%)と堅調に推移した。産地別の月平均単価は、兵庫物がkg¥196(前年比129%)、佐賀物がkg¥120(前年比99%)、香川物がkg¥187(前年124%)、栃木がkg¥147(前年比120%)で、佐賀物は品質劣化で前年価格を下回った

7月に入り、入荷は減少傾向で品薄高相場が続いている。1日～20日までの販売量は前年比92%、平均単価はkg¥166前年比102%となっている。兵庫物の入荷は1、621トン前年比82%。佐賀物の入荷は642トン前年比40%であったが、愛知、群馬、栃木、富山中小産地や中国・ニュージ物の入荷増に助けられた。今年の佐賀物は、病害による品質不良で着荷後の劣化が早く、客離れがして販売に苦労した。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の6月の玉葱の入荷量は、4、132トン前年比108%(前月比72%)であった。北海物の在庫増と愛知の出荷が前進化したことで前年比増となった。主力の愛知物の入荷は2、618トン前年比119%、占有率は63%で前年比6ポイントアップ。兵庫物は817トン前年比81%の入荷、占有率は20%で前年比6ポイントダウン。北海物は607トンの入荷で前年比141%、占有率は15%で前年比4ポイントアップ。平均単価はkg¥115前年比100%(前月比153%)、産地別では、愛知物はkg¥111前年比97%。北海物はkg¥56前年比100%。兵庫物はkg¥177前年比120%であった。

7月に入り、愛知物の入荷が終盤を迎え、月後半から国内産は淡路物のみの販売となったが、中国物を併売している。淡路物は価格が高過ぎで中京地区では引き合いが鈍く、量的には動かない。安値を志向する客には、必要に応じ中国物で対応している。市場では北海物の入荷を待ち望んでいる。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の6月の玉葱の販売量は、2、962トン前年比87%(前月比72%)で2桁の減少であった。佐賀物が病害による品質劣化で買参人に敬遠され集加

減となったことが影響した。佐賀物以外の入荷は前年を上回った。主力の兵庫物は1, 848トンの入荷で前年比111%、占有率は62%で前年比13ポイントアップ。北海物は468トンの入荷で前年は皆無、占有率は16%。佐賀物の入荷は297トンで前年比30%、占有率は10%で19ポイントダウン。その他、愛知、和歌山、栃木などの入荷があった。平均単価はkg¥157前年比130%(前月比138%)でうなぎ上りに上昇した。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥185で前年比126%、佐賀物はkg¥135で前年比114%であった。

7月に入り入荷は減少傾向で、1日～20日の販売量は前年比85%。平均単価はkg¥197前年比127%となっている。兵庫物の入荷は1, 518トン前年比97%。佐賀物の入荷は23トン、前年比9%に激減した。他方、和歌山、富山、愛知の中小産地や中国物が増加した。月半ばには淡路物のL20kgの高値が¥4, 500に達し、高値悩みで引き合いが弱く、荷動きは鈍化した。小売店などでは1粒当りの単価が安いM・Sの販売が強まり、M・Sが品薄高となった。

福岡市場

福岡市中央卸売市場(福果)の6月の玉葱の販売量は、2, 930トン前年比107%(前月比91%)であった。主力の佐賀物が大幅減となったが、北海、兵庫、愛媛物等が大幅増となったことで前年を上回った。主力の佐賀物は1, 277トンの入荷で前年比75%、占有率は44%で前年比18ポイントダウン。北海物は677トンの入荷で前年比172%、占有率は23%で9ポイントアップ。兵庫物は361トンの入荷で前年比18倍、占有率は12%で前年比11ポイントアップ。平均単価はkg¥123で前年比108%(前月比127%)。入荷増ながら堅調に推移した。産地別では佐賀物はkg¥119で前年比94%。北海物はkg¥84で前年比88%。兵庫物はkg¥206で前年比112%となっている。

7月に入り、佐賀物の入荷が激減したほか、品質劣化が目立ち相場は10kg¥2, 300(高値)～¥1, 500(安値)と価格差が開いた。良品を求める向きには高値の淡路物で、割安品を求める向きにはニュージーランドや中国物で対応した。此処にきて、高値悩みで場売りの動きは芳しくない。無理な集荷販売は控え北海物の入荷待ちの状態にあるが、周

辺市場への転送需要は意外に多い。

7月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷161トン、強い

北海道 20kgNT2L ¥4,000～3,500、L大 ¥6,000～3,500、L ¥4,300～3,700、
M ¥4,000～

〃 10kgDBサラタマL大 ¥2,000～ L ¥2,000～ M ¥2,000～

佐 賀 20kgDBS ¥1,500～

岩 手 20kgNT3L ¥2800～ 2L ¥3,500～ L ¥3,600～

兵 庫 20kgDBL ¥5,000～

【太田市場】 入荷186トン、弱い

佐 賀 20kgDB L ¥3,800～3,000、 M ¥3,800～3,000。

新 潟 20kgDB2L ¥3,600～3,500、 L ¥4,000～3,900、 M ¥3,800～3,700。

兵 庫 20kgDB2L ¥4,000～3,900、 L ¥4,500～4,300、 M ¥4,500～4,300。

愛 知 10kgDB2L ¥1,700～1,600、 L ¥1,900～1,700、 M ¥1,700～1,600。

【名古屋北部】 入荷68トン、強い

兵 庫 20kgDB2L ¥4,000～3,900、L ¥4,400～4,300、 M ¥4,500～4,400。

中 国 20kgNT2L ¥1,600～ L ¥1,600～

【大阪本場】 入荷109トン、弱保合

兵 庫 20kgDB2L ¥4,200～4,000、 L ¥4,500～4,300、 M ¥4,700～4,400、
S ¥3,600～3,500。

〃 10kgDB2L ¥2,100～2,000、 L ¥2,300～2,100、 M ¥2,400～2,200、
S ¥1,700～1,500。

【福岡市場】 入荷 1トン、弱保合

佐 賀 10kgDB L ¥2,500～1,500、 M ¥2,300～1,500、 S ¥1,700～1,500。

愛 媛 10kgDB2L ¥2,500～2,300、 L ¥2,500～2,500、 M ¥2,500～2,200。

兵 庫 20kgDB2L ¥4,300～4,200、 L ¥4,800～4,500、 M ¥4,800～4,500。

供給(産地)の動き

府県産玉葱の主力産地である佐賀では、ベト病による大被害で生産量が激減したほか、品質劣化で産地在庫は殆ど無きにひとしい。外観的には健全全球に見えても、芯や鱗片の内部で腐敗が進行しており、商品価値のあるものは既に出荷終了の状態である。続く兵庫も病害で生産減となったことや出荷は前進化しているものの、冷蔵物の主産地でもあり、在庫量は前年を大幅に下回るものの、唯一来春まで出荷が続く産地である。その他の中小産地は市況高で、出荷は前進化傾向にあり、在庫は少なく終了は前年より早い。

北海産は生育途上にあり、6月天候は降雨量が多く、各地で水やけが発生し湿害が懸念されたが、日照時間が比較的多かったことが幸いして、一部の地域以外は7月後半から回復傾向で、全道的にはほぼ平年作は確保される見通しにある。産地関係者の間では佐賀物の不作で異常高の市況が続いていることから、8月の高値期待ムードが高まり出荷は前進化すると見ている。

輸入は、春から需給タイトで日本の市況が異常高であることで、輸入商談が活発化し、6月以降は増加傾向にある。8月からはアメリカ物の成約が増加することで、前年を上回る入荷が続くと見ている。

7月は、府県産の品薄で市況は異常高値が続いたが、8月は北海物のお荷が始まるほか、輸入物の入荷増で品薄高は順次鎮静化すると思われる。

府県産地

7月の主力産地は、兵庫と佐賀になるが、佐賀は病害の影響で出荷は激減したが、市況高を反映して兵庫を始め愛知、栃木、富山など中小産地の出荷は順調である。府県産地の多くは出荷の前進化で7月末の産地在庫は、前年を大幅に下回る。

佐賀では、例年7～8月販売用に除湿乾燥処理をしてストックするが、今年はJAが前年比34%、商系が前年比70%に減少したほか、品質劣化が早く早期出荷となったことで、出荷は殆ど終了している。現在は、生産者段階で小屋吊りにした吊り玉を出荷しているが、S中心の球流れで小粒な上に品質劣化が早く、商品化率が低下し、市場からもクレ

ームが多く、販売を敬遠されている。今年の玉葱栽培は病害で、種子代、農薬代、肥料代にも事欠く状態で、生産者の多くは栽培意欲を喪失している。

佐賀に次ぐ主力産地の淡路島では、5月中旬時のべト病発生率は定点15ヶ所平均の発生率は39.42%(過去5ヶ年平均0.63%)で近年にない発生率となったが、懸命な防除対策で8分作前後の作柄を維持した。7月の即売出荷は前進化し、前年を15%前後上回っており、産地在庫は少ない。既に冷蔵貯蔵の最盛期になっているが、入庫作業も前進化している。今年の入庫は前年比半減するとの声が高いが、7月末の入庫量は前年比70~80%で推移している。近年、淡路島玉葱として地域ブランド化したことで、消費者の評価が高く年間供給の確立と、高くても売れるとのムードから、予想外の入庫となっている。品質的には病害の影響でかなり見劣りがする。

北海道産地

今年の北海道は、6月の降雨量が平年比200%を越え、各地で水焼けが発生し生育が懸念されていたが、昨今では作柄に地域差はあるものの、平年作は確保される予想である。極早生の生育は前進化し、既に北早生3号の収穫、出荷が始まっている。北早生の生育は順調で、球流れは前年より大粒である。当社関係会社の前週の選果実績は数量で前年比175%、球流れは2L13%(前年9%)、L大46%(前年32%)、L23%(前年41%)、M4%(前年10%)S1%(前年2%)、B13%(前年6%)となっている。現在、市況高を反映して全道的に、根切り、収穫作業が前進化しているが、なかには未熟の圃場で根切りをしている風景を見受ける。総括的な作柄の見通しは、平年作と見ている。6月の多雨の影響で、水やけ・湿害が見受けられるものの、被害は地域別圃場別に差があり、現地の意見も様々である。作柄の確定は面積の大きい中生系の作況が見極められる8月半ばになる。昨今、札幌市場が異常高値で推移していることから、生産者の夏高期待ムードが広がっている。

外国産地

6月の輸入は、速報値で、36,786トン前年比95%で、増加傾向にある。国別の輸入量は、中国が30,077トンで前年比95%。ニュージーランドが5,300トンで前年比97%。

オーストラリヤが1, 193トンで前年比80%となっている。

中国、主力は江蘇、山東省で甘肅省の一部でも収穫が始まっている。日本からの引き合いが増加しているものの、国内マーケットが芳しくないことから、現地価格は弱含みに転じている。江蘇省は小振りで不作気味。山東省は大粒傾向で豊作気味。現在価格は、20kg・C&F・ムキ玉 \$ 7.60、皮付き \$ 6.20 の水準である。

アメリカ、今シーズンの貯蔵性玉葱の作付けは前年比2～3%増となっており、昨年不作であったワシントン州も生育順調と報告されている。現在カリフォルニア産の出荷が始まっている。現在、アメリカも端境期にあり、国内マーケットは堅調で依然高値水準にあり、日本向け価格は、50㍩・C&F・ \$ 16.95 前後の高値水準にある。8月中旬頃からは値下がりの予想。

8月の市況見通し

8月の市場は、中旬から北海物に移行するが、札幌市場で北海物が異常高値となったことから、産地では期待が膨らみ、極早生物の集荷、販売が過熱化している。8月の始めは盆需要の関係もあり、品不足はピークに達し市況は一段高となる可能性があるが、盆明けからは需給は次第に緩み、相場は順次沈静化に向かう。現状の20kg ¥ 4,500～4,000の市況が続けば、需要が細り品不足が品余りに転じる可能性も否定出来ない。北海道物の中晩生の作柄にもよるが、月後半には ¥ 3, 000台に軟化し、9月は更に下押すと見ている。(了)